

日本医療薬学会 「がん指導薬剤師」

北出 紘規 先生

勤務先：加賀市医療センター

出身地：石川県

資格取得年：2022年

Q1 資格取得のきっかけは何でしたか？

前職場（芳珠記念病院）でがん専門薬剤師を取得し、日々がん薬物療法に関する業務に従事しています。自施設に在籍する後輩薬剤師の中でがん専門薬剤師取得の希望者がいた場合、自施設が「がん専門薬剤師研修施設」として認定を受ける必要があります。研修施設として認定を受けるためにはがん指導薬剤師の資格取得が必要であったため、後進の育成のためにも取得しました。また、薬局薬剤師が取得対象となる「地域薬学ケア専門薬剤師」の研修施設にも認定され、近隣の薬局薬剤師の指導・育成にも努めていきたいと考えています。

Q2 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

論文投稿。

Q3 この資格のやりがいは何ですか？

院内外問わず、薬剤師および他の医療従事者に対しがん薬物療法に関する最新の知識を伝達し、がん薬物療法の質向上を図っていくことです。

Q4 この資格はどのように活用されると思いますか？

後輩薬剤師あるいは地域の薬局薬剤師の指導・育成に繋げていけると思います。

Q5 資格を取得して良かったな、と感じる事柄はありましたか？

自施設を「がん専門薬剤師研修施設」および「地域薬学ケア専門薬剤師研修施設」として認定できたこと。今後自施設で新たにがん専門薬剤師取得者が誕生することを願っています。

Q6 他職種とのディスカッションで気をつけていることはありますか？

臨床現場では、特に医師や看護師に治療レジメンの内容や副作用対策について質問されることが多

いです。がん薬物療法は年々複雑化しており、常に最新の情報を整理しておく必要があります。

Q 7 患者さんに接する際に気をつけていることはありますか？

薬剤説明時には、あまり専門用語は使用せず、平易な言葉で説明するように心がけています。治療期間中は、軽微な症状でも副作用の重篤化に繋がるケースもあるので、体調の変化がないか注意深く確認するようにしています。

Q 8 その際に印象的だったエピソードはありますか？

最近は免疫チェックポイント阻害薬（ICI）と化学療法を併用するケースが多く、免疫関連有害事象のマネジメントに対応した時が印象的です。具体的には、従来の抗がん剤でみられるような食欲不振や倦怠感が、ICIによる副腎機能不全であったこと等が挙げられます。

Q 9 その他、苦心していること、気を遣うことなどはありますか？

臨床現場の業務だけでなく、研究活動にも従事していくことが求められます。日々多忙ですが、1つでも多くの論文投稿を目指して頑張りたいと思います。

Q 10 この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

論文投稿が一番ハードルの高い取得要件となっています。上司等とも相談しながら自施設または多施設共同で臨床研究を行い、研究内容を是非論文化に繋げて1人でも多く石川県内でがん指導薬剤師が誕生することを願っています。そして、取得者1人1人がリーダーシップを発揮して後進の指導・育成に取り組み、石川県内全体でがん薬物療法の質向上に繋がればと思います。

Q 11 この資格の取得要件をお教えてください。

- (1) 「がん専門薬剤師」として5年以上医療現場で活動していること。
- (2) 別に定めるクレジットを5年で50単位以上取得していること。
- (3) 5年継続して本学会の会員であること。
- (4) がん領域の学会の会員であること。
- (5) 複数査読制のある国際的あるいは全国的学会誌・学術雑誌に掲載されたがん領域1報以上を含む学術論文が3報以上（うち、少なくとも1報は筆頭著者）あるいはがん領域の英文論文筆頭著者1報以上（症例報告を含む）（編集委員以外の複数の専門家による査読を経ない論文

や商業誌の掲載論文は、本条の対象外)。

(6) 国際学会、全国学会あるいは別に定める地区大会におけるがん領域に関する学会発表3回以上(うち、少なくとも1回は筆頭発表者)あるいは国際学会筆頭発表者1回以上。

(7) 「がん専門薬剤師」である期間に、がん専門薬剤師集中教育講座に1回以上参加したこと。